

## 1 単元 球技 「サッカー」

## 2 指導観

- 本単元で取り扱うサッカーは、ボールを媒体として、2つのチームの選手がフィールド内を動き回り、攻守を繰り返すゴール型のスポーツである。また、近年Jリーグやワールドカップなど各メディアを通じて、サッカーの試合に触れる機会も増えたことで生徒の興味関心も高い。また、ボール一つあればいろいろな楽しみ方ができる身近なスポーツである。

サッカーは、技能を習得する過程及び、チームで協力して練習やゲームを工夫する中で、生徒相互の信頼関係を育むことができる。また、走り回る活動を多くさせることにより体力の向上を図ることができる。

- 本学級の生徒は49名、サッカー経験者は7名いる。授業において見学や忘れ物をする生徒は少なく、自ら進んで授業に参加しようとしている。また、体育委員やリーダーを中心に声をかけ合い、意欲的に取り組んでいる。「体育は好きですか」という質問に対しては、90%以上の生徒が好きと答えている。サッカーについては、1年時に授業で経験している。「サッカーが好きですか」という質問に対しては、85%以上生徒が好きと答えている。好きな理由としては、「良いプレーができたとき嬉しいから。」、「ゴールを決めたとき嬉しいから。」という内容が多かった。また、嫌いな理由としては、「苦手である。」、「パスがこない。」という内容が多かった。そして、授業で頑張りたいこととしては、「声を出して仲間とサッカーをしたい。」、「チームで協力したい。」、「上手なプレーを見て覚えない。」など意欲的な内容が多かった。2年時では、基本的技能をさらに向上させるとともに、グループミーティングの中で自分の意見をきちんとと言えるようにさせたい。

- 本単元の指導にあたっては、サッカーの特性を理解し、仲間と協力しながら個人やチームの課題を明確にし、主体的に課題解決学習ができる資質や能力の育成を図らせたい。

そのためにまず、オリエンテーションを行う。サッカーの特性を説明し、本単元の学習の見通しを立てるために、学習の進め方及び、グループノートの書き方や実技の教科書の活用方法について説明していく。

次に、個人的技能であるトラップ・パス・ルックアップ・身体や声を使ったコミュニケーション能力の向上を図る練習を行い、教え合いを通して自己の課題を発見させる。さらに、ミニゲームや条件付きゲームを行い、自己の課題解決に努めさせる。

最後に、リーグ戦を行い、今まで練習してきた技能をゲームに生かしながらチームの課題を見つけさせる。その課題解決を図る方法を工夫しながら取り組ませる。また、授業を通して、教え合いや声かけを積極的にできたかを振り返り、単元のまとめとする。

## 3 目標

- サッカーの特性に関心を持ち、仲間と協力して自己の責任を果たす態度を育てる。
- コミュニケーション能力を高め合いながら活動することができる。
- 個人的技能や集団的スキルを高め、ゲームの中で活用することができる。
- サッカーのルールや戦術を理解している。

4 計画 (14時間) 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：技能 知：知識・理解

次	時	活動内容	目標達成の手立て	評価規準 評価の方法
一	2	1 オリエンテーションを通してサッカーの特性や学び方を理解する。 サッカーの特性, ルール 授業の進め方 実技の教科書を使った学習 グルーピング グループノートの書き方 ・声を使ったコミュニケーション	○学習の進め方やサッカーの特性について説明する。 ○グループノートの活用法を説明する。 ○仲間を励ます言葉・讃える言葉を考えさせ、どんな場面で使えるかまとめさせる。	関：サッカーに関心を持ち、特性や技能について理解しようとする。 様相チェック グループノート 思：仲間がやる気が出るような言かけを考えることができる。 グループノート
二	3	2 基本的な個人的技能を身につける。(オン・ザ・ボール) ・トラップ ・パス ・ルックアップ ・身体, 声を使ったコミュニケーション	○実技の教科書や示範を見ながら動きを確認させる。 ○教え合いを通して自己の課題を発見させ、課題の解決の方策を考えさせる。 ○仲間を励ます言葉・讃える言葉を考えさせ、積極的に声かけをさせる。	知：サッカー用語について理解している。 様相チェック グループノート 思：仲間に適切なアドバイスができる。 様相チェック グループノート 関：仲間のアドバイスを素直に受け入れることができる。 様相チェック グループノート
	5 本 時 7 / 14	3 練習やゲームを行い、個人的技能を高める。(オフ・ザ・ボール) ・グループミーティング ・チームで工夫して練習 ・条件付ゲームで個人分析 ・身体, 声を使ったコミュニケーション	○基本的な技能が正しく活用されているか確認し、状況に応じて助言する。 ○仲間を励ます言葉・讃える言かけをさせる ○お互いに声を掛け合いながら協力して練習やゲームを進めさせる。 ○特別ルールを設け、積極的なゲーム展開ができるようにさせる。	思：仲間がやる気が出るような言かけを考えることができる。 様相チェック 思：自己の能力を分析し、その中から課題を見つけ、解決の方策を考えることができる。 様相チェック グループノート 技：活動の中で個人技能を活用できている。 様相チェック 関：仲間と協力して活動することができる。 様相チェック
三	4	4 簡易なルールで、ゲームを行う。 ・リーグ戦を行い、チーム分析  5 単元全体を振り返り、まとめをする。  ・評価活動	○ゲームを通してチームの課題を見つけさせ、課題解決につながる助言を行う。  ○練習で学んだ技能を意識して活用するように助言する。  ○グループノートを活用し、活動の中で工夫した点や練習内容、声かけなどを振り返らせる。	関：積極的に学んだ技能を活用しようとしている。 様相チェック 思：チームの課題を解決するために分析し、作戦を立てることができる。 観察 グループノート 技：ゲームの中で個人のもつ技能を発揮できている。 様相チェック 知：ルールを理解している。 様相チェック 思：自己の活動を振り返り、反省することができる。 グループノート

## (雨天時)

5 本時 平成21年 10月 7日 (水) 第5校時 第二次の5 本校武道場

### (1) 本時の指導観

第二次の4でパスを受けて、ルックアップして味方の位置を確認し、パスを出すことができるようになってきた。しかし、空いているスペースを見つけて走り込む仲間へパスをしたり、動きながら声で指示をしたりすることができていない。

そこで、本時では事前に撮影した活動状況のビデオを観て振り返らせる。次に、グループミーティングを活用し、練習方法の反省や改善、声かけの工夫を行わせ、今までの活動を評価させる。

最後に、全体でのまとめをし、次時につなげる。

### (2) 主眼

- グループで協力して話し合いをさせ、お互いに適切なアドバイスをすることができる。
- グループミーティングを活用し、練習内容を工夫させ、チームの評価活動をさせる。

### (3) 準備

- ①グループノート (筆記用具)      ②黒板      ③ ビデオ      ④ スクリーン      ⑤プロジェクター
- ⑥ボード

### (4) 過程

学習活動内容	準備	手だて (○) と評価 (◆)	形態	配分
1. 学習の準備をする ・集合、整列、出欠確認、健康観察。 ・ストレッチ体操、補強運動 ・挨拶 ・本時のめあてと流れの確認をする。  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             〈学習のめあて〉  <b>今までの活動を振りかえろう</b> </div>	⑥	○チャイムが鳴ると同時に授業が始まるようにさせる。 ○心と体のウォーミングアップのために大きな声を出させる。 ○仲間との協力を意識させる。	一斉	15
2. 事前に撮影したビデオを観る。	③④⑤	○ビデオを観て、振り返らせる。	一斉	15
3. グループミーティングをする。 ・練習方法の反省や改善 ・声かけの工夫 ・今までの活動の評価 (これまでの MVP の決定) ・発表	①	○チームでの練習内容が工夫されているか確認し、アドバイスする。  ◆関：グループミーティングに意欲的に参加している。 〈様相チェック〉	グループ	15
4. 本時のまとめと次時の予告 ・全体でのまとめ ・次時の予告 挨拶	②⑥	○グループノートをもとに反省をさせる。	一斉	5